

組織目標評価報告書（令和 2 年度）

39

部局名：

安全衛生推進機構

部局長名：

渡邊 和良

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
	目標に関連する 年度計画の番号	教育領域の目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
1 教職員ならびに学生に対する安全教育、特に高圧ガス、化学物質管理システム、化学物質取扱い、リスクアセスメント等に関する講習会を企画・立案し、関連部局と協働して、その実施を図る。 2 日本語を解さない外国人教職員ならびに外国人学生に対する適切な安全衛生指導を行うための外国語による教育を企画・立案し、関連部局と協働して、その実施を図る。 3 安全衛生に関する教育資料の作成を企画・立案し、関連部局に周知し、安全衛生教育を推進する。	89①	安全衛生部と協働し、10月に実施した総合防災訓練では、防災に関する構成員の意識向上を図るため、学生・教職員へMoodleによる防災に関する事前学習コンテンツ(英語版も含む)を作成し、643人が受講した。併せて、受講者の内382人から回答を得たアンケート結果に基づき、更なる防災教育の推進とより実効性のある訓練計画を策定し、一層の防災意識の向上を目指す検討を始めている。 また、整備した化学物質リスクアセスメント報告・確認システムのマニュアルや説明会資料並びに令和3年1月に改正した局所排気装置定期自主検査の指針、同講習資料等を機構HPに掲載し、構成員が自主的に学習できる環境を整えた。さらに、局所排気装置定期自主検査に関しては、開催要望があった部署で講習会を開催した。
②研究領域		
	目標に関連する 年度計画の番号	研究領域の目標の達成状況
1 岡山大学における安全衛生活動の実態を調査し、リスクアセスメントを始めとする安全衛生管理を適切に行う仕組みやシステムの開発に向けた研究を実施する。 2 日本語を解さない外国人教職員ならびに外国人学生向けの安全教育教材を開発する。	89①	本学における化学物質リスクアセスメントの実施状況の分析を行い、その結果から、リスクアセスメントと作業環境測定を関連付けることで高リスク作業の抽出及び測定の効率化を図れるよう、作業環境測定の実施手順を見直し、その取扱いを津島地区を先行として、策定・通知した。
③社会貢献(診療を含む)領域		
	目標に関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域の目標の達成状況
1 安全衛生に関する教育・研究・実践で得られた有用な情報を社会に発信する。 2 関連部局と協働して、安全衛生に関して産学で連携した取り組みについて、その実施を図る。 3 安全衛生に関する学外向けの教育・講習会を企画・立案し、関連部局と協働して、その実施を図る。	89①	安全衛生に関する学外向けの教育・講習会については、新型コロナウイルスまん延の影響により、開催はできなかったが、関係者と来年の開催に向け打合せを行い、効果的な知識の習得や講習の方向性及び感染対策に配慮した開催方法の確認を行った。 機構HPにて、安全衛生講習会に関する情報、安全に関する情報等を公開し、外部から安全衛生に関する情報を閲覧できるようにした。
④管理運営領域		
	目標に関連する 年度計画の番号	管理運営領域の目標の達成状況
1 安全衛生部と協働して、学内の安全衛生の維持・向上に努める。 2 保健管理センター、環境管理センター等と協働して、学内の安全衛生管理体制を構築する。 3 運営会議等の関連する委員会・会議を通して、各事業場と協働し、全学的な安全衛生管理の仕組みを構築する。	89①	安全衛生部と協働して、事件・事故情報の共有やヒヤリハット事例を学内限定で安全衛生推進機構HPにてあたらに公開するとともに、事業場で共有したい事件・事故の事例を全学安全衛生管理委員会へ報告するなど、事故の再発防止に必要な情報について、周知を図った。 また、各事業場における職場の安全確保・リスク低減を図るため、10月に全事業場に対し、チェックシートを策定の上、職場巡視の実施徹底を促すとともに、安全衛生委員会での調査審議及び議事要旨への記載を要請した。 さらに津島地区の事業場においては、新たに各部局における毎月1回の職場巡視の実施を要請するとともに、安全衛生委員会での調査審議及び議事要旨への記載を繰り返し依頼するなど、部局構成員の労働安全意識の向上と安全・安心な学内環境づくりを推進した。また、体制を整え、9月から本格的に開始した衛生管理者巡視では、機構教員も衛生管理者として巡視を行い、部局に対し改善事項に関する指導・助言を行うとともに、改善報告を求めるなど、構内の安全衛生の維持・向上に努めた。 会議では、安全衛生管理体制の充実を推進するため、鹿田地区及び津島地区事業場と協働し、機構教員が安全衛生委員会に参画し、安全衛生管理の指導・助言を行った。
⑤センター・機構等業務		
	目標に関連する 年度計画の番号	管理運営領域の目標の達成状況
全学ならびに各部局における安全・安心な教育・研究環境基盤の整備を支援する。 1 学内での実験室等における事件・事故を検証し、再発防止対策を支援する。 2 関係部局と協働して、全学のリスクアセスメントを実施する。 3 関係部局と協働して、教職員ならびにTA・SAへの安全衛生講習を実施する。 4 学内外への安全衛生にかかる情報を発信・共有するため、安全衛生推進機構のホームページを適切に管理運営するとともに、外国人教職員ならびに外国人学生に対応した英語化を推進する。	7③ 69③ 89① 91③	本学の安全衛生を更に推進させるため、安全・安心な教育・研究環境基盤の整備を支援する取組として、実験室等における事故の内、直ちに当事者である学生・教職員への確認並びに指導が必要と判断した事例について、安全衛生部と協働し、関係者からの聞き取りを実施するとともに、問題点を明確にした上で策定を求めた再発防止策が適切であることを確認した。 河川での流量観測時に学生が流された事故については、野外での研究時の危険を改めて認識させるとともに、部局内でも再発防止の検討が必要と判断し、関係部局長宛に文書で再発防止を含めた対策の検討の上、報告を求めた結果、新たに野外での調査研究における安全に関する教員指導用資料を作成し、学生への安全教育や安全対策の徹底を行った旨の報告を受けた。 動物実験施設で発生した針刺し事故については、関係する複数の研究室の全てで嗜き取りを実施し、安全な注射針の取扱いについて指導を行うとともに、事故の重大性と再発防止策の必要性を踏まえ、所属部局長宛に文書にて所要の対応を依頼したため、直ちに当該部局全体への注意喚起がなされた。 実験中に薬品が学生の目に入った事故については、実験時の保護具の着用の徹底について指導するとともに、器具等の取扱い方法の問題点等にも指導・助言を行った。 また、セキュリティ向上の観点から、安全衛生推進機構のHPを大学公式webページに移行すると同時に、コンテンツの見直しを行い、安全衛生に係る情報を構成員が共有できるように整備した。これに関連し、安全に関する情報提供の場として、機構メールマガジンの発信を開始し、全教職員へ送信した。